



部品運営委員会 シンガポール・マレーシア開催

支部部品運営委員会(委員長:(株)村田製作所・村田恒夫 社長)では、8月25日(木)にシンガポール国立大学と同国陸上交通庁、26日(金)にソニーEMCS(マレーシア)とJETROクアラルンプール事務所を訪問すると共に、定例委員会を、現地責任者も交え、ローム・シンガポールオフィスにて開催しました。

シンガポール国立大学

○25日(木)9:00～11:00



シンガポール国立大学視察



試作車の試乗

Advanced Robotics Centerにて、Dr. Marceloより「人を中心に協働するロボット」、Dr. Hsuより「未来の都市交通に向けた低コスト自動運転システム」について説明いただき、試作車に試乗しました。

同センターでは安全で信頼性の高い自動走行技術により、人口密度のきわめて高い地域におけるオンデマンドの交通手段の実現に取り組んでいます。シンガポールは、高層ビルによるGPS障害が深刻なため、実地データから作成した専用マップとレーザーレーダーのセンシングを組み合わせる方式で自動運転をめざしています。既に実証実験段階で、横展開可能な要素技術開発としても注目を集めており、非常に有意義な視察・交流となりました。

シンガポール陸上交通庁(LTA)

○25日(木)13:00～14:30



シンガポール陸上交通庁訪問

Corporate Planning & Development Group DirectorのMr. Lew Derより歓迎挨拶の後、シンガポールにおける自動運転導入の為の体制と取り組みについて説明を受けました。交通渋滞、運転手不足、土地の有効利用等の課題解決にフォーカスした政策として取り組んでいます。2020年の試験導入に向け、傘下の官民合同組織CARTS(Committee on Autonomous Road Transport:自動道路交通委員会)に設置された2つのWGにおいて、技術、社会受容性、法整備の検討が行われています。都市国家における交通システムの課題を自

動運転技術で解決する取り組みについて最新の状況をうかがい、率直な意見交換が行われました。

ソニーEMCS(マレーシア)

○26日(金)13:15～15:30

塚田副社長より歓迎挨拶の後、幹部の方々(調達・生産・総務)より事業の状況を説明いただき、生産ラインを見学しました。1987年以降に設立された複数の生産会社を2004年に統合、テレビ・オーディオ事業におけるグローバルマザー事業所として、日本からサプライチェーンの全機能(企画・設計・調達・製造・カスタマーサービス)を移しました。全体最適のマネジメントを進めた結果、設計コストの引き下げ、一貫対応による品質向上、多様なニーズへの柔軟な対応が可能となっています。従業員の国籍は、マレーシア(半数近く)、インドネシア、ミャンマー、ネパール、ベトナム、バングラデッシュと多様ですが、「Open & Transparent」を旗印に、労務、福利厚生、各種イベントで融和を進めています。

工場見学では、チューナー・テレビの組立工程等を紹介いただきました。幅広い領域で様々な工夫を継続して進め、日本のモノづくりの先進性・高品質とグローバルに通用するコスト力を、多様な民族のチームワークで実現する取り組みに感銘を受けました。



ソニー(EMCS)マレーシア視察

JETROクアラルンプール事務所

○26日(金)16:30～17:45

梶田マネージングダイレクターよりマレーシアの概況を説明いただきました。面積は約33万Km²(日本の9割)、人口は3,100万人(同2割)、多民族国家(マレー系61.8%、華人系21.4%、インド系6.4%)で、雇用の大きな部分を外国人に依存しています。マハティール首相以来の「Look East」政策により国民は親日的で、高い英語力、少ない自然災害、治安の良さ、安定した政治など、投資先として大きな魅力を持ちます。一方で、原油価格の下落、輸出の減速等から財政赤字は大きく、補助金の削減や課税強化が進められています。中長期的な取り組みとして、ジョホールバル地域の大型複合開発計画「イスカンダル」(2020年完成予定)、クアラルンプール-シンガポール間の新幹線、金融・ヘルスケア・ICT産業の集結、電気・電子産業の誘致に注力しています。歴史的背景から、マレー系および先住民族への優遇政策(ブミプトラ)が続き、不法滞在者対策も含めて、外国人雇用の抑制(2020年までに15%以下)を進めています。労働政策や工業振興策等について活発な質疑も行われ、マレーシア経済の実態と課題について理解を深めることができました。



JETROクアラルンプール事務所訪問